

新着資料アラートサービス

関心のある「キーワード」や「著者」などをあらかじめ登録すると、その条件にあった女性教育情報センターの新着資料をEメールでお知らせ！

男女共同参画や女性、ジェンダー等に関する最新情報を知りたい方にオススメです！



【登録はこちらから】

 <https://winet.nwec.jp/bunken/sdi/>



今、フェミニズム
～声を上げる、行動する、変える～

女性教育情報センターテーマ展示（1～3月）

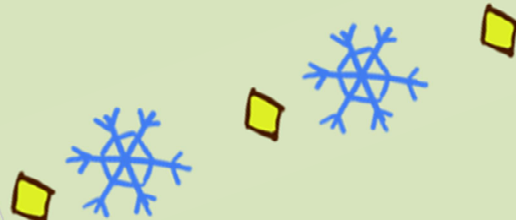
(URL) <https://www.nwec.jp/event/center/feminism.html>



編集・発行: 独立行政法人国立女性教育会館 情報課
〒355-0292
埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地
TEL:0493-62-6195
URL:<https://www.nwec.jp/facility/center.html>



発行: 2021年1月

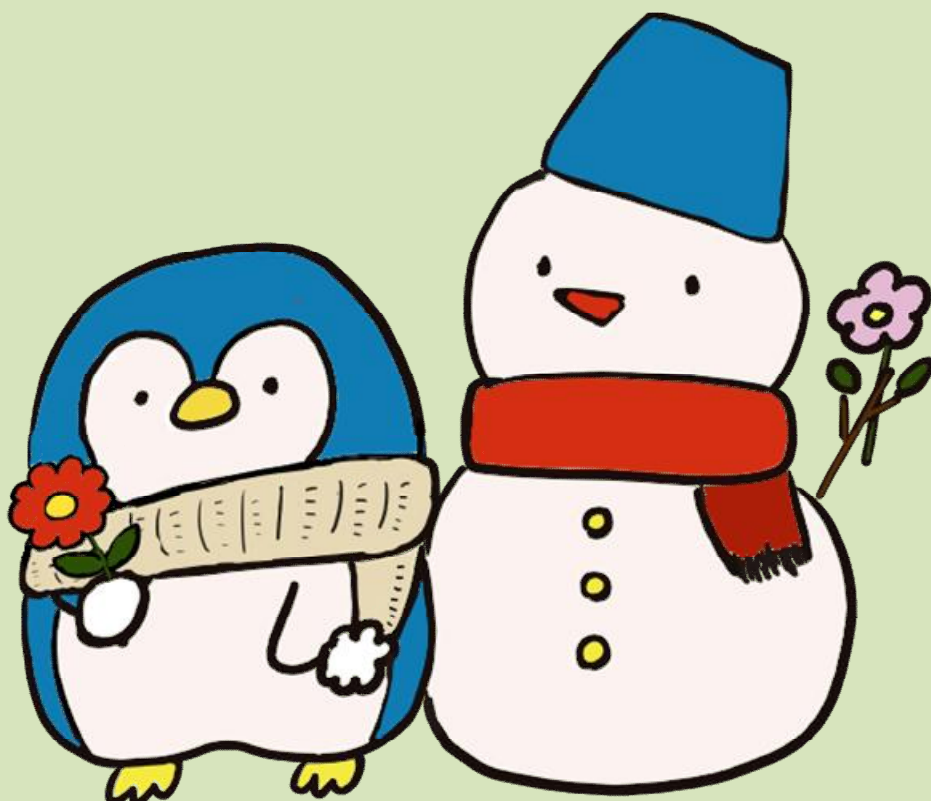




まず
本、あり❑。

-?を！に変える本との出会いを見つけるマガジン-
///Vol.22///

今、フェミニズム
～声を上げる、行動する、変える～



フェミニズムとは

フェミニスト政治学者のベル・フックス(1952-)は、フェミニズムを、「性差別をなくし、性差別的な搾取や抑圧をなくそうとする思想や運動」と定義しています。

『フェミニズムはみんなのもの』ベル・フックス著：堀田碧訳 新水社 2003



フェミニズムの歴史 * 諸説あり

第一波フェミニズム 19世紀~20世紀

- ・女性の相続権、財産権、参政権などを求めた運動に象徴される
- ・政治や社会など公的領域に焦点をあてた

女性の参政権が世界で初めて認められた国は、ニュージーランドで1893年。日本では、1945年に認められた。近年では、サウジアラビアが2015年に認められたよ。



第二波フェミニズム 1960年代~1980年代

- ・女性解放運動が登場した
- ・公的領域(政治・経済活動など)は男性、私的領域(家庭)は女性というジェンダー化された構造を問い直そうとした

日本では、ウーマン・リブとも呼ばれたよ。日本で社会的に注目されたのは、1970年10月国際反戦デーに女性だけで行ったデモが初めといわれているよ。



もっと詳しく知りたい方へ...

女性・ジェンダー関連情報を調べるのに最適!



国立女性教育会館 文献情報データベース

https://winet.nwec.jp/bunken/opac_search



【検索キーワード例】

フェミニズム、フェミニスト、女性解放運動、女性運動、ウーマン・リブ、女性問題、男女平等、ジェンダー、女性史、社会運動、MeToo、KuToo、フラワーデモなど

色々なキーワードで検索してみよう!

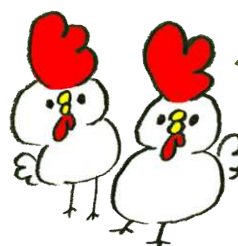


文献情報データベースでできること

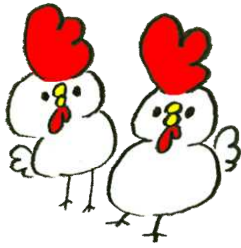
- ①女性教育情報センターの豊富な所蔵資料が検索できます
図書・地方行政資料14万冊、雑誌4千タイトル、
新聞記事50万件、和雑誌記事7万6千件
- ②資料には、登録時に関連キーワードが付与されているため、
幅広い、効率的な検索ができます



タイトルなどでは
見つけられなかった
思わぬ資料と出会える!



行政資料、ミニコミ誌・
広報誌など、
一般には売られていない、
資料が多数見つかるよ!



出版の分野でもフェミニズムが盛んになってきているよ

日本経済新聞 2019.06.22

活字の海で：出版界にフェミニズムの風：声あげる女性の動きに呼応 / 桂星子



『特集 韓国・フェミニズム・日本 (文藝;2019年秋季号)』

河出書房新社 2019

チョ・ナムジュ氏(『82年生まれ、キム・ジヨン』作者)、西加奈子氏(直木賞作家)ら、日本と韓国の作家10人の短編や、翻訳家の斎藤真理子氏と鴻巣友季子氏の対談を掲載。この号は17年ぶりに「文藝」の増刷、創刊以来86年ぶりに3刷となりました。増補の上、『完全版 韓国・フェミニズム・日本』(斎藤真理子編 河出書房新社 2019)として単行本化されています。



『シモーヌ・ド・ボーヴォワール：特集(シモーヌ vol. 1)』

シモーヌ編集部編 現代書館 2019

『シモーヌ』は、“雑誌感覚で読めるフェミニズム入門ブック”です。初号特集は、第二波フェミニズムに大きな影響を与えた『第二の性』の著者ボーヴォワール。文学、女性思想、生き立ちなどからボーヴォワールについて書かれています。フェミニズムに関するエッセイ、コラム、短歌や図書・映画レビューなども掲載されています。



『読書する女たち：

フェミニズムの名著は私の人生をどう変えたか』

ステファニー・スタール著；伊達尚美訳 イースト・プレス 2020

育児に追われふさぎ込む著者は、大学生の頃読んだベティ・フリーダン著『新しい女性の創造』を再読し、感銘を受け、母校での「フェミニストのテキスト講座」聴講を決意します。15冊のフェミニズムの名著を通じて、著者が自分自身を取り戻していく過程をつづったエッセイです。

第三波フェミニズム 1980年代終わり～1990年代

- ・「女性」というカテゴリーだけでなく、人種、セクシュアリティ、ポスト植民地主義などの問題の重要性を強調した
- ・ダイバーシティ、インターセクショナルリティという観念が強調された
- ・ポップカルチャーにもフェミニズムが広がった

それまでのフェミニズムでは、中産階級、同性愛者の白人女性が中心だったよ。



第四波フェミニズム 2010年代～

- ・ソーシャルメディアを活用し、オンライン上での運動や問題意識が共有されるようになった

2018年、Twitterで#(ハッシュタグ)を用いた#MeToo運動は、大きな社会運動へとつながっていったよ



(参考) Vogue Japan 「フェミニズムの4つの波—フランケンシュタインから#MeTooまで。【VOGUEと学ぶフェミニズム Vol.2】」 <https://www.vogue.co.jp/change/article/feminism-lesson-vol2> (2020.12.24アクセス)



『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください!』
上野千鶴子、田房永子著 大和書房 2020

上野千鶴子氏(社会学者、東京大学名誉教授)と田房永子氏(漫画家)の対談集。

母娘問題、結婚・育児、セックス、学生運動、性暴力など多分野からフェミニズムについて知ることができます。

文章は読みやすい話し言葉で書かれ、用語の解説も充実しています。



近年、#MeToo運動、#KuToo運動、フラワーデモなど、女性たちが声を上げ、社会を変えるための運動が世界的に起こっているよ。



『その名を暴け：

#MeTooに火をつけたジャーナリストたちの闘い』

ジョディ・カンター、ミーガン・トゥーイー著；古屋美登里訳 新潮社 2020

2017年、「ニューヨーク・タイムズ」紙がアメリカ合衆国の有名映画プロデューサーによる女優やスタッフへのセクハラ・性暴力を告発。この報道は「#Me Too」運動のきっかけとなり、ピューリッツァー賞（2018年度）を受賞しました。

記事を書いた「ニューヨーク・タイムズ」紙の報道記者が調査報道を記録したノン・フィクションです。



『フラワーデモを記録する』

フラワーデモ編 エトセトラブックス 2020

「フラワーデモ」は、花を身に付けて性暴力に抗議する運動です。2019年に性暴力事件の無罪判決をきっかけに日本で始まりました。本書では、フラワーデモに関する日本全国・世界での記録、弁護士や作家らの寄稿、刑法勉強会、デモスピーチ、運動に寄せられた声などが掲載されています。

* エトセトラブックスは、2018年にフェミニズム関連本専門の出版社として設立



『#KuToo (クートゥー)：靴から考える本気のフェミニズム』

石川優実著 現代書館 2019

「#KuToo」(「靴」と「苦痛」の意味を持つ)は、女性が職場でハイヒールやパンプスの着用を義務づけられる服装規定に抗議する社会運動です。2019年に著者 石川優実氏のTwitter発信をきっかけに、多くの女性たちが同じ苦痛を感じていることを発信し、企業で規定の変更が行われるなど、影響を与えました。本書では、著者の実体験や思い、運動記録が書かれています。



子どもにも分かりやすくフェミニズムを伝えられる資料を知りたいな。



『フェミニズムってなんのこと？』

(国際化の時代に生きるためのQ&A ; 3)

ルイズ・スピルズベリー, ビー・アップルビー著 ; 渡辺薫訳
創元社 2018

フェミニズムの基礎知識、「フェミニストってどんな人?」、「フェミニズムはいつ始まったの?」など、子ども向けに書かれた入門書です。俳優や作家、活動家などの著名人による体験談やフェミニズムについての考え方も掲載されています。



『北欧に学ぶ小さなフェミニストの本』

サッサ・ブーレグレン作 ; 枇谷玲子訳 岩崎書店 2018

10歳の少女エツバが新聞で見た「世界の権力者」(2006年G8の首相)の写真は男性ばかり。エツバは男女の不平等に気づき、友達と不平等について話し、歴史を学んでいきます。男女平等が進むスウェーデン発、少女がフェミニズムについて考え、行動していく物語です。



『イジェアウェレへ: フェミニスト宣言、15の提案』

チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ著 ; くぼたのぞみ訳
河出書房新社 2019

出産をした友人から、自分が経験した性差別を娘には体験させないために「女の赤ちゃんをフェミニストに育てるにはどうすればいいか教えて」と尋ねられた著者。回答として15の提案が手紙形式で書かれています。

「好かれようとするのをやめるよう教えてください」、「ジェンダーロール(社会から期待される性別による役割分担)はまったくナンセンスな考え方だと教えてください」など、考え方が書かれています。